

## 「桃山学院大学学生論集」第27号の発刊にあたって

学長 明 石 吉 三

学生懸賞論文、学生研究発表大会の入賞者の皆さん、おめでとうございます。

2011年度の学生懸賞論文の応募本数は82編となり、昨年度の57編から大きく増加しました。これは、この制度に対する学内の注目度が年々上昇し、論文作成の中心となるゼミからの積極的な働きかけの影響であると想像します。そのような中、今回、学生懸賞論文に応募された82の個人・グループの方に敬意を表するとともに、学生研究発表大会でも4会場で41グループ・個人が発表を行われ、大幅に参加者を増やしたことを嬉しく思います。

先ず、今回の応募状況ですが、学生懸賞論文では、所属ゼミ・テーマで分類した学部別の投稿件数は、経済42編、社会22編、経営1編、国際教養15編、法2編となり、一方の学生研究発表大会では、経済、社会、経営の3学部から参加がありました。

次に、審査結果ですが、学生懸賞論文では、今号も学長特別賞は該当がなく、優秀作1編、佳作4編、準佳作4編という結果でした。学生研究発表大会については、優秀賞1名、佳作8グループ・個人、準佳作10グループ・個人となっています。何れも、選外になった作品にも高く評価できるものが少なくなかったと聞いております。

今年度も、学生懸賞論文、学生研究発表大会ともに、スマートフォンやLCC等といった新産業分野、排出権取引やエコカーといった環境分野、自治体の合併や財政に関する問題等、時代を強く反映したテーマが多く見られました。このことから、社会に対する問題意識を深める機会として、学生懸賞論文、学生研究発表大会が大きな役割を担っていることを再確認することができました。

なお、本学では、多様な懸賞・顕彰・奨励制度を設けております。その中で、学生懸賞論文、学生研究発表大会は、勉学面で本学が他大学に誇ることができる制度であると自負しています。今回、復刊第27号となる『学生論集』ですが、その前身となった『経済学論集別巻学生論集』（1965年発刊）から数えると通算第40号となります。また、他大学では学部単位での実施が多い中、本学では全学で実施しています。学生懸賞論文は、歴史的にも、実施面でも他大学に誇ることができる制度といえます。また、学生研究発表大会についても、学生が実行委員会を組織し、自主的に運営することを尊重し、着実に発展を続けています。本学では、今後も、勉学面はもちろん、多様な面において学生の意欲とやる気を支援していきたいと考えています。もちろん、学生懸賞論文、学生研究発表大会についても、益々の発展を期待いたします。

最後になりましたが、学生懸賞論文、学生研究発表大会の準備、運営にご尽力された教員ならびに職員の方々に、感謝の言葉を申し上げます。